

「新・京都市産業振興ビジョン(仮称)」に対する市民意見募集の結果一覧表

市民意見数 52人, 102件

No.	寄せられた主な意見	本市の考え方
①	ビジョン全般について(20件)	
1	京都から景気が回復するような計画(ビジョン)になればと思う。	
2	社会・経済情勢の不安が払拭されない現状において、事業活動と市民の維持発展の道筋を示すことは大変意義がある。	ビジョンでは、中期的視点に立った戦略的な産業振興施策を行い、京都における企業及び従業員の利益の拡大、雇用の場の確保、市民サービスの向上を支える税収の増加といった経済活性化のための好循環を生み出し、市民の豊かな生活と社会を支える経済基盤の確立を目指しています。御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
3	市内需要が増加することで企業の経営が支えられ、企業が育ち、また新たな投資が生まれるという好循環をもたらす。このビジョンでは生産面の支援策を重視しているが、需要を増やすことも重要だと思う。	
4	ビジョンを見て、一般市民には現実の暮らしがどう変わっていくのかイメージしにくい。何かが変わっていくという期待感がほしい。	御指摘を踏まえ、「第5 目指す都市・産業の姿(理念)」に「こうした都市の実現により、産業の競争力を高め、新たな市場を開拓し、市民の多様な雇用の機会を生み出すとともに、製品の開発や技術革新によって市民生活の利便性を向上させ、更には、活発な産業活動による税収の確保を通じて、教育、医療、福祉等の市民サービスの向上を図るなど、市民がやりがいをもって安心して働ける豊かな生活と社会を支える経済基盤を確立する。」と追記し、産業振興が市民の暮らしにどのように関係していくかについて記載しました。
5	このビジョンは誰に向けて発信しているのかわからない。	ビジョンでは、市民の豊かな生活と社会を支える経済基盤の確立を目指しています。また、ビジョンは、企業・事業者、市民、経済団体に向けて発信しており、「第12 ビジョンの推進に向けて」の中で、それぞれの役割をお示しし、連携と共汗によりビジョンが目指す都市像である「新・価値創造都市」の実現を図ることとしています。
7 8	「産業振興ビジョン」という名称は、すべての産業分野を網羅した計画と受け取られる。観光や商業、伝統産業は別に計画があるため、ビジョンの名称を再考する必要があるのではないか。【その他、同様の意見1件】	パブリックコメントの実施に当たって公開した中間案の名称は、あくまでも仮称です。最終のビジョンの名称につきましては、御指摘の点にも留意して決定して参ります。
9	サービス産業の振興はどこに位置づけられているのか。	ビジョンは、製造業をはじめ、ものづくり機能に関連のある産業(情報関連産業、コンテンツ産業、知識関連サービス業等)を含む分野を対象に、その振興の方向性と重点戦略等を示しています。御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
10	非製造業と製造業が協業で新しいマーケットを開拓するような視点も必要では。	
11	ビジョンとして非常にイメージしやすいものができたと感じる。後は、どれだけ実効性のあるものにするかが重要である。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
12	ビジョンを実現して、雇用の拡大や税収のアップにつなげてほしい。	
13 14 15 16 17	京都の強みを生かしたビジョンだと思う。【その他、同様の意見4件】	ビジョンは、御意見の趣旨に合致しています。
18	京都市が今後魅力的に発展するためには、第一線で活躍する「意識レベル」の高い市民、経済人、文化人、クリエイター達を巻き込んで、様々な問題を解決する、斬新で絶妙な具体的アイデアの創出が必要である。経済発展へのひらめきに繋がるような、より具体的なグランドビジョン(夢)はつくれないものか。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
19 20	産業振興の視点をものづくりで考えること自体は良いと思うが、そもそも観光や農業、サービス業も産業であるし、分けて計画を作る理由がよくわからない。将来はまとめた形での議論も必要ではないか。その議論の下での各論が大事である。【その他、同様の意見1件】	産業・商業、観光、農林など本市の各政策分野を盛り込んだ総合計画として、「はばたけ未来へ！ 京(みやこ)プラン」(京都市基本計画)を昨年12月に策定致しました。このビジョンは、その分野別計画という位置付けです。

②	第2「スーパーテクノシティ構想」における成果(2件)	
21	スーパーテクノシティ構想と新・京都市産業振興ビジョンの比較表があれば、より分かりやすいのはないか。	ビジョンは、スーパーテクノシティ構想での取組の成果を踏まえて検討しました。しかし、近年の急速に変化する社会・経済情勢の下、新しい産業振興の方向性を明確に打ち出すために、スーパーテクノシティ構想の施策体系とは異なる施策体系を打ち出しました。そのため、単純に施策を比較することができないため、施策比較表等の作成は行っておりません。
22	「スーパーテクノシティ構想」におけるベンチャー企業の支援、学術研究との連携、クリエイティブ産業の促進、伝統産業の活性化などの概念と成果は十分に評価できる。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。

③	第3 京都市を取り巻く社会・経済状況(1件)	
23	ビジョンを進めるに当たり、中小企業の声に耳を傾けるとともに、TPPや国の金融政策などマクロ経済の動向も意識して欲しい。	マクロ経済の動向については、「第3 京都市を取り巻く社会・経済状況」に記載していますが、今後も大きな変化が見込まれることから、その時々状況に適切に対応していくことが不可欠と考えています。御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。

④	第4 京都市の現状(8件)	
24	市内製造業数の減少が「弱み」とされているが、減少が避けられない場合、例えばM&Aの斡旋などにより、まず京都市内での引き受け先を探す仕組みを構築し、事業の京都以外への流出を止めることが必要ではないか。そうすれば、雇用や付加価値の流出が止められると思う。	行政が直接企業のM&Aに関与することは困難ですが、市内からの事業所の流出を抑制し、雇用や付加価値の流出を最小限に止めることが重要であることは、御指摘のとおりです。御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
25	京都の強みだけでなく、京都の弱みにも目を向けられていることは素晴らしい。京都の弱み(課題)をどう解決するか、あるいは弱みを強みに変える発想なども必要である。	本市を取り巻く現状に関する御意見は御指摘のとおりです。御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
26	京都市の現状で強み・弱みがあるが、数値で示すとわかりやすくなるのではないか。	ビジョンの検討段階では、具体的な数値を示して検討を行いました。しかし、頁数の制約から全ての項目について数値やグラフで示すことは困難なため、最終的には数値を省略し、変化の方向性等を示すこととしました。
27 28	京都の強みは都市のブランドである。【その他、同様の意見1件】	
29	京都に会社があることや京都製、京都在住、京都出身であることなどに価値を感じる「京都ブランド」が確立できれば、京都の様々な強みをもっと活かせることになるのではないか。	本市を取り巻く現状に関する御意見は、御指摘のとおりです。御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
30	京都の既存の強みは今や京都の強みではなく、京都ブランドでもなく、京都とのつながりがなくなって流出しているのではないか。	
31	強みに製造業における付加価値の高さを述べられている点について、同様の認識を持っている。	ビジョンは、御意見の趣旨に合致しています。

⑤ 第5 目指す都市・産業の姿(3件)		
32	ビジョン策定にあたり、広い視野で目指す都市・産業の姿(理念)を定められていることは素晴らしい。 「新・価値創造都市・京都」を目指す事は京都にしかない特徴を改めて掘り起こし、新たな創造を起こす起点になり、都市としてのブランド構築に繋がると期待できる。	ビジョンは、御意見の趣旨に合致しています。
33	京都のアイデンティティの再構築への議論と、その結果としての強力なメッセージが希薄に感じる。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
⑦ 第7 3つの重点戦略(49件)		
34	重点戦略の下に先導プロジェクトを設定しモデル事業を提言されているのは、たいへん具体的であり評価できる。民間企業がこのビジョンに共鳴できるような取り組みや、あるいはこのビジョンにのっとった起業や、新規事業開発、企業間協業などをして一定の成果が出た場合のインセンティブなども必要ではないか。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
戦略Ⅰ イノベーションによる高付加価値のものづくりとマーケティング		
35 36	戦略にあるマーケティングの重視について、行政がどこまでそれを認識・把握できるのか。民間企業もそれぞれ独自に戦略を練っており、相当力を入れなければ目的は達成できないだろう。具体的対応策に期待する。【その他、同様の意見1件】	マーケティングの視点は、非常に重要な視点であると考えています。御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
37	巨大化したかつてのベンチャー企業を考えると伝統産業や大学研究機関、宗教キャピタルと絡んでいると思う。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
38	KRP地区では、統合により新産業技術センターが立地する。今後、府とどのように連携して進めるのか。	支援を受ける中小・ベンチャー企業の視点に立ち、具体的な連携の内容について、今後検討していきます。
39 40	日本が再び成長していくためには、起業家が尊敬され、失敗した起業家に対して寛容な社会でなければならない。そうした意味で、「教育」は大事であり、施策のメニューに追加してはどうか。【その他、同様の意見1件】	御指摘の趣旨に対応する取組としては、「中小・ベンチャー企業の新事業創出支援策の充実」の中で、国内外から学生を集めて起業家精神の涵養やネットワーク構築、ビジネス化支援などを行い、学生ベンチャー創出を行う支援環境を整備するとしています。
41	優秀な人材の確保や育成のためには、優秀な学生を京都に引きとどめ、京都で活用していくという方向性を強く打ち出し、具体策を講じていく必要がある。	上記の取組に加えて、「先導プロジェクト」に掲げた「京都・高度人材交流拠点構想(仮称)」が御指摘に対応するものです。
42	「課題解決型産業」よりも「社会ニーズ対応型産業」の方が前向きだと思う。	「課題解決型産業」という表現は、国の新成長戦略の中でも用いられているものです。意味としては、御指摘の「社会ニーズ対応型産業」と同じものと考えており、戦略Ⅰについて「社会的ニーズに対応する成長分野」という表現で説明しています。
43	内需拡大が見込めない状況を踏まえ、海外進出支援を強化すべき。	海外市場への展開の支援については、既に取り組んでいる府の事業との連携や役割分担について検討し、相互に強みを発揮できる支援を進めていきます。御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
44	海外ビジネス展開では、京都企業の技術リストを集約し、パッケージで売り込むことが必要である。	
45	グローバル市場への支援については、中国は京都府に任せて、市ではヨーロッパ市場への展開を支援するといったことができないか。市とパリの提携の中で、伝統産業や先端産業を定期的に展示するなどアンテナショップなどを確保し、渡航費さえあれば企業が出品できるような仕組みがあれば海外進出しやすいのではないか。	
46	外国の市場もよく知っている人材の確保が重要である。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
47	中小企業の海外ビジネス展開をはかるということだが、市内から多くの企業が進出すれば雇用の問題が発生する。企業が生き残るための海外進出は理解できるが、雇用面についてはどう考えているのか。	海外事業による売上は様々な形で国内(京都)に還元され、本社部門の利益拡大や、国内工場から海外工場への部品輸出の増加をもたらします。国際化を図った中小企業は労働生産性及び国内の従業者数が増加するという傾向が認められます。
戦略Ⅱ 新たな価値の創造による知恵産業の推進		
48 49 50 51	京都には、歴史、文化、大学など他の都市には無い魅力がある。これらの魅力と伝統産業や先端産業の高い技術を最大限に生かして京都ならではの産業を生み出すことが大切である。【その他、同様の意見3件】	ビジョンは、御意見の趣旨に合致しています。
52 53 54 55	伝統産業の着物の需要開拓を目指して、公共の建物や商業ビルで着物を着る無料のイベントを毎週開催してはどうか。このイベントの会場で、お華やお茶の体験をしたり、着付けを習ったりできるようにするほか、イベント会場の外の市内の着物店に入って無料で生地を見たり試着出来るチケットを市内で配布するのがよい。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
56	伝統産業における危機感は年々増している。保護による伝承ではなく、現在に活躍できるステージの設営や未来に向けての振興が急務である。	ビジョンは、御意見の趣旨に合致しています。
57	長い歴史に裏打ちされた「本質」が京都にはある。一つの製品にどれだけの歴史や物語が詰まっているか(詰こめるか)を「京都モデル」として発信し、施策等を打ち上げられればと思う。	
58	それぞれの地域で、衣食住、文化と生活、伝統を踏まえた地域密着の文化度の高い産業が生まれる源として、京都から文化や伝統産業の知恵を活かした産業を創出するといった意気込みがあってもいいのではないか。	
59 60	知恵産業融合センターでは、オープンスペースでコーヒーも飲みながらといった「知恵を持ち寄る場」という雰囲気をつくる必要がある。【その他、同様の意見1件】	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
61	人が集うところ、人に注目されるところは活気があふれ活性化するといったメッセージが感じられる政策を出して欲しい。	世界中から人材が集まり、新しい企業が生まれ、それが内外から注目を集めて、更なる人材、企業を吸引するといった好循環を生み出すことがこのビジョンの狙いの一つです。そのために、先導プロジェクトに「京都・高度人材交流拠点構想(仮称)」の策定・推進」を掲げています。
62	京都に人を集め、お金が集まるシステムを作る必要がある。	
63	コンテストや公募をもっともっと沢山増やし「頑張っている人」「センスある人」を評価し表彰するなど、多くの意識レベルの高い市民を「褒めて育てる」ことが必要である。「センスのある人」「思いのある人」を京都市の発展に取り込み、力を貸してもらうことに取り組んで頂きたい。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
64	街ぐるみで映画の振興をするため、若手作家を育成する支援策が必要である。	ビジョンでは、「戦略Ⅱ 新たな価値の創造による知恵産業の推進」の、「2 コンテンツ産業の振興」において、次代のコンテンツ産業を支える人材の発掘と育成について記載しており、御意見の趣旨に合致しています。
65	コンテンツ産業の課題は就職先である。京都での受け皿(就職先)の確保が必要である。	コンテンツ産業の課題については御指摘のとおりです。御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
66 67	京都は重厚長大産業の事業所の立地には向かないと思われる。コンテンツ産業を核に産業連鎖を図る先導プロジェクト「マンガミニクラスターの形成」は面白い。【その他、同様の意見1件】	ビジョンでは、「戦略Ⅲ 広域的視点にたった事業環境の整備」の「2 京都の特性を生かした立地環境の整備」において、「本社、開発拠点、研究所の新規立地や事業拡大支援」を記載しており、御意見の趣旨に合致しています。
68	マンガミニクラスターの方向性は良いが、府市が協力して進めてほしい。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
69	京都の良さを生かしきれていない。他行政とは違う京都の魅力を前面的に打ち出した、ワクワクするビジョンを期待する。マンガミュージアムの成功は斬新だが、京都らしいかどうかは疑問。	ビジョンでは、京都の”強み”を生かした重点戦略の推進を掲げています。「京都国際マンガミュージアム」は、我が国初のマンガ文化総合拠点であり、京都の”強み”を体現した地域資源と考えています。御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。

戦略Ⅲ 広域的視点に立った事業環境の整備		
70	産業振興を支える人材の労働環境、住環境の更なる充実が必要である。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
71	公設の研究拠点や民間企業の研究施設が多数ある京都に、新しい研究施設が必要なのか。先導プロジェクトであるならば、どんな研究ニーズがあるのか、どういう技術を開発するのかなど、当面の具体的なゴールを分かりやすく示す必要がある。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
72 73	京都市の新景観制度は、企業の建築物の建替や新築にとって、相当な足かせになる場合がある。現行の新景観制度の中においても、用途地域や景観に与える影響を配慮しつつ、ものづくり産業振興のために規制緩和を検討、実施すべきである。【その他、同様の意見1件】	御意見を踏まえ、「戦略Ⅲ 広域的視点に立った事業環境の整備」に基づく主な施策に「ものづくり都市を支える活力ある工業地の形成」の項目を追記しました。なお、「京都市駐車場条例」につきましては、本年の2月市会において、駐車需要に応じた駐車施設の適正な配置を図るとともに、歩くことを中心としたまちと暮らしの実現を目的として、用途に見合った適切な駐車台数となるよう、建築物の用途区分の細分化や用途区分ごとの基準値(附置を義務付ける駐車施設1台当たりの床面積)の見直し及び公共交通利用促進策を実施する商業施設等に対して、一定の付置義務の引き下げ等を含んだ条例改正を行ったところです。
74	京都市駐車場条例により、建屋建築時の駐車場施設付置が、事業所・工場用途へも適用されているが、既存企業の建て替えて大規模な増員を伴わず、既存駐車場を十分に活用できる場合には、適用を除外すべきである。特に、公共交通を十分に利用できる立地の場合は、電車・バスの利用を奨励すべきで、駐車施設の設置を強要すべきではない。	
75 76	企業立地促進制度は、他の自治体に比べると必ずしも充実したものとはいえない。建築時の申請事項で、各種監督部署への訪問、説明が重複する場合が多く、他の自治体でも行っている様に、京都市として窓口の一本化を求める。【その他、同様の意見1件】	企業立地の促進については、「企業立地促進制度をはじめとする施策等の充実を図る」としています。御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
77	京都に土地がないなら、豊富な事業用地を有する滋賀県に工場を誘致し、その恩恵を受受するような施策が必要だと思う。(滋賀県立地企業でも京都市民を一定数雇用することで京都の産業支援機関を活用できるなど。)	
78 79	南部地域(らくなん進都)の活性化は、京都経済の発展に欠かせないものである。【その他、同様の意見1件】	ビジョンは、「先導プロジェクト」「南部地域における産学公連携による拠点の整備」等を記載しており、御意見の趣旨に合致しています。
80	グローバル経済では、輸送コストが企業の収益に大きく影響する。京都市は輸送環境が不利なので、通関に要する時間や港湾への輸送時間の短縮など、輸送コストを低下させる取組が必要である。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
81	計画的な都市開発やインフラ整備が不可欠である。	
82	まとまった工場用地がないなどの京都市の特性を考えると、「町に工場や企業を集める」という従来型の発想でよいのか。既成概念にとらわれない「新たな産業振興のありかた」まで踏み込んだビジョンであればよかった。	御指摘のとおり市内でのまとまった工場用地の確保が難しいことを考慮して、「戦略Ⅲ 広域的視点に立った事業環境の整備」という戦略を提示しています。また、京都市がめざすべき新たな産業振興の方向性として、「戦略Ⅱ 新たな価値の創造による知恵産業の推進」を打ち出しています。

⑧ 第10「新・価値創造都市・京都」の実現を支える中小企業		
83	京都の大企業の発注先が京都から地方や海外へ大きくシフトしていないか。一度、ここ数年の動きについて調査してはどうか。地元優先企業を事業所税の減免など税制面で優遇すれば、京都の中小企業は少しでも潤うと思う。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
84	中小企業支援は市民生活に直結する大事な課題であり、最優先での取組を期待している。	ビジョンは、「中小企業の事業活動とその発展を支援することは、ビジョンが目指す都市像の実現において必要不可欠」と記載しており、御意見の趣旨に合致しています。
85	ビジョン確定までに、より多くの中小企業経営者や従業員の声を聞き、認識を共有する取組を進められることを望みます。また、制定後の点検・評価に当たっても同様に組み込まれることを強く望みます。	「第10『新価値創造都市・京都』の実現を支える中小企業」において、「中小企業が安心して事業活動に取り組めるよう、国や京都府、経済団体、産業支援機関等との連携の下、中小企業の声を広く聴き、幅広い支援策をより効果的に展開していく」としています。御指摘の点も参考にさせていただき、中小企業の支援に取り組んでいきます。
86	市場が縮小している業種では、企業が収益を生める水準まで企業数の減少を誘導することが必要である。ただし、中小企業の経営は生活と密接に関連しているので、同時に、他業種へのスムーズな雇用の転換を進めることが必要である。	
87	新卒の就職状況は厳しいが、堅調な中小企業は人材不足に直面しているところが多いので、うまく学生とのマッチングを行えば、雇用も活性化し経済も上向くのでは。	
88	ポテンシャルがありながら産学官連携に参加できない地場の中小企業を連携に呼び込むため、中小企業が参加しやすい支援が必要ではないか。	

⑨ 第11 成果指標(1件)		
89	税収の増加が最大の目標ではないかと思う。数値目標に税収の増加や就業人口の増加を加えてはどうか。	観光、農林業、商業などの分野別計画がある中、産業振興ビジョンは製造業中心の産業分野を対象としております。このため、雇用や税収の増加などもビジョンの最終目標ではありますが、すべての分野を包含しており、区分けが困難です。よって、製造業における市内総生産を成果指標としました。また、「第11 成果指標」に「企業の生産活動により新たに生じた価値は、市民の所得に還元され、消費の拡大につながるという好循環が生み出される。このような経済の仕組みを踏まえ、ビジョンでは製造業における市内総生産を成果指標とする。」と指標設定の考え方を追記しました。

⑩ 第12 ビジョンの推進に向けて(1件)		
90	様々な主体がそれぞれの役割を果たしながら、相互に連携する持続可能な好循環を作り出すという考え方に基づいて、「企業・事業者」「学術研究機関」「市民」「経済団体」「行政」それぞれの役割を明示されたことに賛意を表します。	ビジョンは、御意見の趣旨に合致しています。

⑪ その他(12件)		
91	産業振興は京都からというアピールを全国に広げるべき。	御意見につきましては、具体的に施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
92	京都で事業を興したい、会社を構えたい、勤めたい、家庭を持ち生活をしたいなど、京都に人が集まる政策や広報を検討してほしい。	
93	子どもにレベルの高い教育をしたいと考える親を京都に呼び込み、少子高齢化対応型都市を京都で作ってはどうか。	教育や高齢化対応の都市づくりは、ものづくりを中心とした産業の振興を目的とする産業振興ビジョンの中で位置付けることは困難ですが、産業政策との関わりのある部分については、政策の融合を図りつつ取り組んでいきたいと考えます。
94	高齢者を京都に呼び込む手法を考えるべきである。	高齢者どのような位置づけで呼び込むのか政策の目的によって変わってきます。本ビジョンでは、高度人材や産業支援人材としての京都の産業振興に関わっていただくということが考えられます。
95	京都市の「ごみ」は過去に比べ減ったが「ごみ」が無くなることはない。国の助成を受けて建設した溶融施設を上手に活用し、溶融スラグのリサイクル率をあげて、「溶融スラグ循環型社会」をめざしてほしい。	環境政策を対象とする分野別計画の中で位置付けられるものと考えます。
96	今後想定される社会ニーズとして、高齢者のモビリティ向上がある。エコロジーかつ安全、快適に移動できる交通手段は、高齢化が他地域より早く進行する京都ならではのニーズではないか。	環境政策や交通政策を対象とする分野別計画の中で位置付けられるものと考えられますが、産業政策との関わりのある部分については、政策の融合を図りつつ取り組んでいきたいと考えます。

97	京野菜を一次産品として出荷するだけでなく、二次加工したブランド食品を開発する、京都に住みたい人や農業を学びたい人と、後継者のいない農家の経営支援をマッチングするなど、先端農業・バイオ技術分野以外でも京都の農業を高次化する方策はあるのではないか。	農林業を対象とする分野別計画の中で位置付けられるものと考えられますが、産業政策との関わりのある部分については、政策の融合を図りつつ取り組んでいきたいと考えます。
98 99 100	国土交通省から補助金をも受け、北京の間伐材を使用し木質の路面材を開発する事業に取り組んでいる。オリジナルの商品ができつつあり、京都市、京都府からの支援も得て試験をする事となり、今後の事業継続を検討している。上記事業のゴールは、山主、育林、間伐、製材、流通、販売、建設といった上流から下流までのビジネスモデル(スキーム)を確立することである。また、国の補助事業で取り組んだ産学連携事業から、大学との連携の利点や大学の事情、異業種連携のメリットや問題点などが分かった。	
101 102	京都市では特区は申請しているのか。【その他、同様の意見1件】	総合特区については、本市でも申請の準備を進めています。昨年9月のアイディア提案では、国際戦略総合特区に2件、地域活性化総合特区に1件の提案を国に対して行っています。